

下原委員（自民議連）

令和3年3月11日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）県内の高校生がスーパーサイエンスハイスクール事業に取り組む意義と効果について

県内の高校生が、スーパーサイエンスハイスクール事業という先駆的で新たな研究にチャレンジする意義と効果について、どのように捉えているのか、教育長の所見を伺う。

（答）

グローバル化や情報化が急速に進展する中、学校教育におきましては、子供たちが様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげることができるようにすることが求められております。

このため、西条農業高等学校では、平成24年度からスーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受け、広島大学や近隣の研究所に加え、海外の大学や高等学校等と連携し、高いレベルの探究活動に取り組んでおります。

こうした取組により、県内の高校生が、グローバルな視点を持った科学技術人材となるために必要な課題設定能力や仮説検証能力等を身に付けることは、大きな意義がございます。

西条農業高等学校の生徒は、全県調査におきましても、

- ・ 仮説を立てて検証しようとしたり、
- ・ 学んだことを日常生活にどう活用できるか

を考えたりする力が高い傾向が見られるとともに、科学技術に夢と希望を持ち、事実やデータを基に科学的に解釈し、主体的に考え行動することができる力が育成されております。

こうした成果は、本県が進める「主体的な学び」を促す教育課程の編成や授業づくりのモデルとなっていることから、教育委員会といたしましては、西条農業高等学校の取組を更に深化・発展させるよう支援するとともに、得られた成果を県内全ての高等学校等へ普及できるよう努めてまいります。